

令和5年度全国学力・学習状況調査
～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

1. 調査の概要

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

全国の小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査【国語、算数・数学、英語（中学校）】
(英語はほぼ3年に1回実施)
- (2)児童・生徒及び学校に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）＊希望する学校はオンライン調査で実施
- (3)学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度：悉皆調査
平成22年度～25年度：抽出調査及び希望利用方式（石狩市は全校が実施）
（但し23年度は東日本大震災のため希望校のみの実施で石狩市は全校が実施）
平成26年度以降：悉皆調査（但し令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行のため中止）

※調査問題は、「国立教育政策研究所」のホームページで見ることができます。
（「国立教育政策研究所」を検索後、「全国学力・学習状況調査」をクリック）

5. 調査実施日

令和5年4月18日（火）
＊英語「話すこと」調査は石狩市においては全校4月18日（火）～5月26日（金）の期間にオンライン調査で実施

6. 本市の調査実施学校数及び児童生徒数

小学校6年生及び義務教育学校前期課程6年生：10校で実施 448名
中学校3年生及び義務教育学校後期課程3年生：7校で実施 487名
＊児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出

7. 調査結果の解釈等に関する留意事項

調査結果が児童・生徒の身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつ、調査結果で明らかになった実態や課題の把握し、今後、教育施策や児童生徒への教育指導の充実を図る。

2. 教科に関する調査結果の概要

■ 小学校の教科に関する結果

- 国語～正答率は全国・全道平均との比較では、ともにほぼ同様（上位）の結果でした。昨年度との比較では、正答率を伸ばし、全国平均を上回りました。
- 算数～正答率は全道平均との比較では同様、全国平均との比較ではほぼ同様（下位）の結果でした。昨年度との比較では、全国平均との差が縮まりました。

■ 中学校の教科に関する結果

- 国語～正答率は全国・全道平均との比較では、ともにやや低い結果でした。昨年度との比較では、全国平均との差が縮まりました。
- 数学～正答率は全道平均との比較では低く、全国平均との比較では相当低い結果でした。昨年度との比較では、全国平均との差がやや縮まりました。
- 英語～正答率は全道平均との比較では低く、全国平均との比較では、相当低い結果でした。前回（平成 31 年度）との比較では、全国平均との差がやや広がりました。

■ 国語、算数・数学の 2 教科平均の結果

- 小学校～2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、10校中4校でした。
- 中学校～2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、7校中2校でした。

■ 国語、数学、英語の 3 教科平均の結果

- 中学校～3教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、7校中1校でした。

3. 児童・生徒質問紙調査結果の概要

■ 改善傾向

- ①自己肯定感・規範意識等に関わる項目のうち「自分には、よいところがある」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生は全国・全道平均とほぼ同様であり、昨年と比べて増加傾向にあります。
- ②自己肯定感・規範意識に関わる項目のうち「人が困っているとき、進んで助けていますか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は全国・全道平均を上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。
- ③基本的な生活習慣等に関わる項目のうち「朝食摂取」で、「毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小中学生ともに全国・全道平均を下回るものの、昨年と比べて増加傾向にあります。

■ 課題傾向

- ①自己肯定感・規範意識等に関わる項目のうち「将来の夢や目標を持っている」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は全国・全道平均よりやや低く、昨年に比べて減少傾向にあります。
- ②学習習慣等に関わる項目で、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上学習している」割合は、小中学生は約6割で小学生は全国平均とほぼ同様ですが、中学生は昨年度より増えているものの全国平均を下回っています。
- ③ICT機器を活用した学習状況に関わる項目で、「昨年度、授業でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している」割合は、小学生で昨年度より増加傾向ですが、中学生で全国・全道平均を大きく下回っています。

4. 学校質問紙調査結果の概要

多くの項目で小学校・中学校ともに肯定的な回答であり、全国・全道平均を上回る結果でした。ただ、学習指導・授業改善に関する取り組みでは、ICT機器を活用した個別最適な学び・協働的な学びへの授業改善が必要であることが分かりました。また、全国学力・学習状況調査結果を積極的に活用して、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善していると回答する学校の割合が多いことが分かりました。

5. 調査結果から明らかになった課題

- ①全道では、平均正答率が全国平均には達していないものの、その差が、全ての教科で2.0ポイント以内となるなど、改善の傾向が見られました。一方、本市においては小学校の国語の平均正答率が全国平均を上回り、算数でも全道平均と同等となったものの、中学校の国語・数学・英語において全国平均との差が大きい状況です。
- ②中学校の国語の全領域について、前年度より正答率の上昇が見られるものの、全国平均との差が大きい結果でした。
- ③算数・数学では、「データの活用」領域及び「記述式」の問題において、全国平均との差が大きくなっています。
- ④伸びしろ層（平均正答率約30%を下回る層）の割合が多い傾向が見られます（小学校の国語以外）。
- ⑤問題から提示される多くの情報（文章やグラフ等の資料）から必要な情報を読み取ったり、活用したり、条件に適切に答えたりすることが不得手である傾向が見られます。
- ⑥小学6年生・中学3年生は、平日（月～金）1時間以上家庭学習している割合はともに約6割で、小学6年生では全国平均とほぼ同様ですが、中学3年生は昨年度より増えているものの全国平均を下回っています。

⑦平日（月～金）30分以上読書する割合は、小学6年生では約3割で、全国・全道平均より低く、中学3年生は3割以下で、全国・全道平均を下回っています。

6. 今後の改善方策

石狩市教育委員会は、調査結果が児童・生徒の身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつも、全国平均に届いていない教科もあることや調査結果で明らかになった課題を受け止め、今後、各校と連携しながら以下のように改善方策に取り組んでまいります。

■「授業改革」のさらなる推進

- (1) 1人1台端末を有効に活用した「個別最適な学び」と「対話的な学び」の一体化を図った授業改革
- (2) 思考力・判断力・表現力を育成する「対話を重視」した学習活動の充実（特に、算数・数学）
- (3) 伸びしろ層・中間層・定着層の各層が伸びる学習指導の充実（少人数指導含む）
- (4) 国語科「読むこと領域」における「系統的な学習内容」の指導と適切な「言語活動」の設定

■「積み残しを生まない」学力保障のさらなる推進

- (5) 1単位時間における振り返り・適用問題による習熟場面の確保
- (6) 算数・数学における「わかる・できる」少人数指導の改善
- (7) AIドリルを活用した補充学習の充実（家庭学習、朝学習、放課後学習）
- (8) 「チャレンジテスト」の有効活用

■望ましい生活習慣の定着に向けた「学校・家庭・地域」のさらなる連携

- (1) 読書活動を工夫し、読書環境の充実
- (2) 基本的な生活習慣と家庭学習の習慣化に向け、根気強い指導と啓発（生活リズムチェックシート等の活用を含みます）

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の活用と共に、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことも重要であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。